# 部会報告

# ISO/TC 127(土工機械 専門委員会)/SC 3/WG 11 (ISO 12509 土工機械—照明,信号,車幅などの灯火及び 反射器) サンディエゴ(米国)国際 WG 会議出席報告

標準部会

土工機械の灯火装置に関する国際的な要求事項として、欧州規則 ECE R6、R48、欧州規格 EN 15573 等に基づく ISO 12509 規格の定期的見直しに当り、ISO/TC 127 専門委員会下の SC 3 分科委員会で、WG 11 作業グループが 2014 年 3 月 3 日~4 日に米国サンディエゴで第 3 回国際 WG 会議を開催、日本からは国内道路運送車両の保安基準に関する国際専門家(Expert)として、2013 年 1 月の第 2 回国際 WG 会議(於マイアミ)に続き協会標準部の小倉次長が出席したので、以下にその概要を報告する。

#### ●会議名

ISO/TC 127 (土工機械) /SC 3/WG 11 (ISO 12509) 会議

#### ●開催地

米国カリフォルニア州サンディエゴ郡サンディエゴ市 Solar Turbines Inc. (キャタピラー社傘下) 会議室 MARS room

#### ●開催日

2014年3月3日~4日

#### ●出席者

米国5: Mr. Patrick J. MERFELD (Terex), Mr. Chuck CROWELL (Caterpillar), Mr. Rick WEIRES (John Deere), Mr. Steve NEVA (Doosan Bobcat), Mr. Steve URLICH (Vermeer), +1: Ms. Tina JOHNSON (John Deere) (電話会議システムで参加) 英国1: Mr. Dale CAMSELL (JCB)

仏国 1: Mr. Jean-Jacques JANOSCH(仏 Caterpillar) 日本 1: 小倉公彦(協会) 計 9 名出席

WG コンビナー(主査)・PL(プロジェクトリーダ): 米国 Mr. Patrick J. MERFELD(Terex)

### ●背景

ISO 12509:2004 は当初、安全に関する ISO/TC 127/SC 2 で制定されたが、電気に関連する内容であることから SC 3 へ移管され、定期的見直し NWIP 投票の承認後、2012 年 3 月パリ西郊の CISMA にて第 1 回国際 WG 会議を開催した。その後、2012 年 10 月にドラ

フト CD (Doc N 8) を作成,2013年1月マイアミの CAT MSAC にて第2回国際 WG 会議を開催した。同議事メモ (Doc N 14) の宿題事項完了に伴い,最終版 CD の作成に先立ち,適用範囲及び技術的内容の見直しに関して合意を得ることを目的として,今回サンディエゴにて第3回国際 WG 会議を開催した。

# ●会議結果概要

前回までの経緯を振り返り、今後の進め方について 討議した結果、「要求事項ではなくゴールとして技術 仕様の作成を進めるべき」との方針を確認した。

2012年6月 NWIP 承認, 同 12 月プロジェクト開始 から 2 年が経過する 2014年 12 月に DIS 登録期限を 迎えることから, 事前に自主キャンセルし再スタート するか, 或いは開発期間を 1 年延長するか, 米国 PL Merfeld 氏が ISO 中央事務局に相談する。

なお、土工機械の灯火類には公道走行用と作業用の両方があり、ISO/TC 127/SC 1/WG 8で扱っているDIS 17253 土工機械及びテレハンドラ―公道での運転を意図した機械の設計要求事項とも密接に関連することから、SC 1/WG 8のPLである英国 Roger BAKER氏(JCB)も本会議に参加の予定であったが、急用で欠席となった。

# ●会議での議論

(3月3日)

2012年パリ西郊会議では、2通りの手法(1 —機械タイプ毎に列挙、2 —基本的な機械カテゴリ毎に列挙)を検討した結果、現行 ISO 12509 のレイアウトが妥当であるとの結論に達した。

2013年マイアミ会議では、要求事項に対して例外 規定が多すぎることから、Annex Eの参照元である 欧州規則 ECE R48 灯火及び信号装置の取り付けに関 する規定 の変遷を調査する必要性が指摘された。

その後、2013年5月に米国オーランドで AEM が 主催した製品安全セミナーにおいて紹介された ANSI/ASABE(米国農業生物技術者協会規格)S 279 一公道における農業用機器の灯火及び標示 について.

米国 PL が会議開催通知を通じて WG メンバーに意見を求めたことを受け、席上で ANSI/ASABE S 279をレビューした。そのうえで、コメント表に基づく詳細議論に入る前に、4 通りの手法(1 —必要な修正のみを行う軽微な改正、2 —技術的な問題を解決する大幅な見直し、3 — ANSI/ASABE S 279と同様の新たなレイアウト、4 —その他)のいずれを採るか、各国の意向を確認した。

・ANSI/ASABE S 279 の下記引用規格について、米国 CROWELL 氏より説明;

ISO 16154:2007, 農林業用トラクタ及び機械―公道走 行用の灯火, 信号装置及び標示用機器

ISO 11783-1:2007, 農林業用トラクタ及び機械―シリアル制御及び通信データネットワーク― Part 1: モバイルデータ通信の一般規格

ISO 11783-2:2012, 農林業用トラクタ及び機械―シリアル制御及び通信データネットワーク― Part 2: 物理的レイヤー

ISO 16154 は、土工機械の灯火類 (DIS 17253) に類似。 ISO 11783-1、-2 は、農業機械において必要とされる 本体車両とインプリメント (けん引する作業用機器) 間のデータ交換について規定している。

- ·S 279 の「公道 =highway」には未舗装道路も含まれ、 ISO 12509 の「公道 =public road」とは若干異なる。
- ・前回宿題事項として、ISO 12509 Annex E が参照 している欧州規則 ECE R48 をレビューした。

前回宿題事項として米国PLが作成した Doc N 18 (ISO 12509 Annex E 表 E1 ~ E16, 欧州規則 ECE R 48 及び 2009/61/EC タイヤ式農林業機械の灯火及び信号装置に関する欧州指令 における取り付け寸法及び幾何学的視認角の比較一覧表)の中で一部数値・記号に転記ミス或いは文字化け(各国間のパソコン仕様相違によると思われるが、" $\geq$ "が">"に誤って変換)を生じており、訂正すべきとした。

- ・前回マイアミ会議における米国・スウェーデン・日本コメント (Doc N 15, 16, 17) を再度レビューした。 (翌3月4日)
- ·引き続き, 米国コメント (Doc N 15) を再度レビュー した。
- · John Deere 社製除雪グレーダ、ミニ/小型ホイー

ルローダ, コンパクトダンプ, コンパクトトラックローダ, バックホウローダ等の画像を見ながら, Annex Eの要求事項と例外規定をレビューした。

-----(ランチブレイク後, 再開) ------

- ・引き続き Bobcat 社製スキッドステアローダの画像を見ながら、Annex Eの要求事項と例外規定をレビューした。
- ・Annex A 表 A.1 における Machines that are *not* <u>intended</u> for travel on public roads… / …that are <u>intended</u> for… は,それぞれ… *not* <u>configured</u> for… / …configured for… とするのが適切である。

# ●次回会合予定

米国 PL Merfeld 氏と ISO 中央事務局の相談結果によるが、次回国際 WG 会議は 2014 年 11 月に仏国パリでの開催を検討する。

# ●その他

今回の国際 WG 会議は、前回に続き米国での開催となり、CROWELL 氏の協力によってカリフォルニア州サンディエゴにあるキャタピラー社傘下ソーラータービンズ社工場内の会議室が提供された。

同社では主に産業・発電・船舶用途向けガスタービンエンジンを製造しており、21,000 ~ 1,200kW 級の6シリーズ(TITAN, MARS, TAURUS, MERCURY, CENTAUR, SATURN)を有する(会議室名にも用いられている)。

なお、会議終了後ネバダ州ラスベガスへ移動し、ラスベガスコンベンションセンターで開催された国際建機 展: CONEXPO-CON/AGG 2014 を 3 月 5, 6 日 に 視察したので、追って報告する。



写真—1 Solar Turbines 社 工場入口看板

J C M A

(協会標準部会事務局記)